

公認スポーツ指導者制度について

公認スポーツ指導者は、すべての資格の基礎となる「スポーツリーダー」と、「指導員」「上級指導員」「コーチ」「上級コーチ」「教師」「上級教師」の6つの競技別指導者資格、「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」の2つのフィットネス系資格、「スポーツドクター」「アスレティックトレーナー」の2つのメディカル・コンディショニング資格、「アシスタントマネジャー」「クラブマネジャー」の2つのマネジメント資格があり、いずれも養成講習会を履修する必要がある。

競技別指導者資格には、陸上競技、水泳、サッカー、スキー、テニス、ボート、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、馬術、ソフトボール、バドミントン、弓道などがある。

最近では、競技団体によっては、国際大会や国民体育大会、全国大会などにおいてこの有資格者でなければ引率できないところもある。

スポーツ指導を職業とし、主に、商業スポーツ施設等において働く人のための資格は、「教師」と「上級教師」。水泳、スキー、テニス、スケート、ボウリング、エアロビック、ゴルフの7競技があり、取得者の多くは、民間のスポーツクラブやフィットネスクラブなどに勤めている。取得までの講習が多く難関だけに、有資格者に対する信頼度は高い。一方、「ジュニアスポーツ指導員」は、子どもの野球チームやサッカーチームなど、地域でスポーツ活動を行うクラブ・サークルやスポーツ教室等で活躍する指導者向け。子どもの場合、無理な指導で成長を阻害することもあり、適切な運動プログラムの提供や基礎的指導・助言ができる有資格者の活躍が望まれている。

スポーツ指導基礎資格 スポーツ指導の基礎を学び、「スポーツリーダー」をめざす。地域におけるスポーツグループやサークルなどで、リーダーとして基礎的なスポーツ指導や運営にあたる。共通科目35時間を通信講習によって学ぶ。本年度から18歳以上となった。

競技別指導者資格 養成実施競技は、水泳、スキー、テニス、エアロビックなど。

指導員 地域スポーツクラブなどで初心者や子どもたちのスポーツ指導にあたる。共通科目35時間、専門科目40時間以上

上級指導員 地域スポーツクラブなどで、年齢、競技レベルに応じた指導を行う。共通科目70時間、専門科目20時間以上

コーチ 地域において、競技者育成のための指導にあたる。共通科目152.5時間、専門科目60時間以上

上級コーチ ナショナルレベルのトレーニング拠点において、各年代で選抜された競技者の育成強化にあたる。共通科目192.5時間、専門科目40時間以上

教師・上級教師はいずれもコーチ・上級コーチに加え、専門科目20時間付加

フィットネス系資格 ジュニアスポーツ指導員 地域スポーツクラブなどで、子どもたちに遊びを通じた体作りの指導を行う。共通科目35時間、専門科目40時間。

スポーツプログラマー 青年期以降のすべての人に、フィットネスの維持や向上のための指導・助言を行う。共通科目70時間、専門科目63時間

メディカル・コンディショニング資格 スポーツドクター スポーツマンの健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、治療、予防研究にあたる。医師免許が必要。

アスレティックトレーナー スポーツドクターやコーチと連携し、競技者の健康管理、傷害予防などにあたる。共通科目152.5時間、専門科目検討中

公認スポーツ指導者制度に基づく資格の性格

本制度による認定資格は、スポーツ指導者として必要な能力を有する者であることを証明するものである。

本会としては、認定された指導者の方々が安心して指導活動ができるよう、環境の整備に努めてまいるが、この資格は教員免許や医師免許のような国家資格と異なり、認定した指導者の方の職業や地位、名誉などを本会が保障するものではない。

各資格取得のための講習カリキュラムは、プレイヤーが「安全に、正しく、楽しく」そして「自らなりたい“自分”に近づく」ためのスポーツ活動をサポートできるよう、スキルや知識を高めるものとなっている。

公認スポーツ指導者とは、指導対象者に対して責任を持って適切なスポーツ指導に当たるために必要な指導能力とスポーツに関する知識を身につけた人材である。